

登山の実施結果について(令和8年4月17日～同年5月27日実施分)

【山岳部】

番号	学校名	行事名	実施山城	実施日	日数	参加 生徒数	引率者	ルート及び通過時間	登山アドバイザー帯同			天候(上段) 積雪量(下段)	特に配慮した点の特記事項	ヒヤリハット事例			
									人数	資格	要件			具体的内容	背景要因	改善策	委員からの助言
1	宇都宮白楊 高等学校	春山登山	赤薙山(栃木 県日光市)	令和8年 5月9日	1日 (日帰り)	4名	1名	JR宇都宮駅(7:02)…JR日光駅(7:45)…霧 降高原キスゲ平園地(8:45)…八平ヶ原 (9:20)…丸山山頂(10:00)…丸山分岐 (10:20)…赤薙山頂付近(11:20)…丸山分岐 (12:20)日光霧降高原キスゲ平園地(13: 00)JR日光駅(14:30)～JR宇都宮駅(15:30)□ □	2名	日本スポーツ協 会公認山岳コー チ1	第6号	晴れ 0mm	春山ということもあり、肌寒い中での登 山が予測されたため、防寒着(雨具)等 についてはいつもよりも多めの種類を 持参させて、体感温度に応じて着衣を 変えるよう指示した。当日の天候は晴 天で天気は良かったが、山頂付近は 強風が吹いていたため山頂までは行 かずに山頂手前で引き返した。□	登りと下りで男子生徒1名が転んだ り、尻もちをつく場面がみられた。幸 いすり傷等の怪我はなかった。□	登山靴を忘れてしま い、運動靴で登山に 参加したことが要因と 考えられる。□	登山実施前には必ず 持ち物の確認をして いるが、今一度忘れ 物がないか前日まで に徹底させることが 必要である。□	忘れ物がないよう事前の指導を徹 底するとともに、装備が不十分な場 合、山行に帯同させない場合があ ることを指導徹底すること。
2	真岡高等学 校	春の合同登 山 (筑波山)	茨城県・つく ば 市	平成8年 4月25日	1日 (日帰り)□	18名	2名	真岡高校着・出発6:30＝筑波山神社着 7:50…御幸ヶ原 コース登山口出発8:10…筑波山頂駅10: 00…女体山 11:00…男体山11:30…筑波山頂駅着・昼 食・発12:20 …御幸ヶ原コース登山口13:10＝真岡高校 到着15:3	1名	日本スポーツ 協会コーチ1 (山岳)	第1号	おおむね 晴れ 0mm	・実施場所是一般登山客が多数訪れる混雑し やすい場所であり、事前の下見の段階におい ても相当数の登山者が確認されていた。その ため、安全管理および行動の円滑化を目的と して、参加者36名を9班に分けて行動する体 制を取った。各班には必ず大人の引率者を1 名以上配置し、さらに先頭班および最後尾 (殿)班を引率者等が担当する形で全体を挟 む隊形とした。これにより、全体で足並みをそ ろえて待機することせず、班ごとに山頂を目 指して順次行動する方式とした。また、混雑に より行動時間が予定を超過する可能性が高 いと判断されたことから、読図活動は必要最 小限にとどめ、目的地は山頂付近の広場とし た。各班にはトランシーバーを配備し、適宜、 所在確認や状況報告等を行いながら行動し た。 ・行動途中において、体力的に厳しい様子が 見られた引率者がいたが、一時的に他班の引 率者を再編成することに対応した。生徒は引 き続き班単位で行動する形を維持しつつ、引 率者間で連携を取り、全体状況を把握できる 体制を確保した。 ・今回の登山で最も危険と思ったところは女体 山山頂である。写真を撮るのに夢中になって 足を踏み外さないよう、注意喚起した。	・下山時、石や階段等で滑り、しりも ちをつく生徒が多かった。□	・登山客が多い山の ため、石が踏み磨か れ、湿気のあるところ ではかなり滑りやす くなっていた。 ・山行前々日の天候 が雨になったことも影 響していた。	・体を横にしたり、登 るときの姿勢にしたり して対応するように注 意した。また、生徒間 の距離を確保し、転 倒 が連鎖しないように注 意した。	問題なし
3	大田原 高等学校	春の合同登 山(筑波山)□	茨城県(つく ば市)□	平成8年 4月25日	1日 (日帰り)□	18名	2名	大田原高校出発5:00＝真岡高校着・出発 6:30＝筑波山神社着7:50…御幸ヶ原コー ス登山口出発8:10…筑波山頂駅10:00… 女体山11:00…男体山11:30…筑波山頂 駅着・昼食・発12:20…御幸ヶ原コース登山 口13:10＝真岡高校＝大田原高校到着16: 30□ □	1名	日本スポーツ協 会コーチ1(山 岳)□ □	第1号	おおむね 晴れ 0mm	・実施場所是一般登山客が多数訪れる混雑し やすい場所であり、事前の下見の段階におい ても相当数の登山者が確認されていた。その ため、安全管理および行動の円滑化を目的と して、参加者36名を9班に分けて行動する体 制を取った。各班には必ず大人の引率者を1 名以上配置し、さらに先頭班および最後尾 (殿)班を引率者等が担当する形で全体を挟 む隊形とした。これにより、全体で足並みをそ ろえて待機することせず、班ごとに山頂を目 指して順次行動する方式とした。また、混雑に より行動時間が予定を超過する可能性が高 いと判断されたことから、読図活動は必要最 小限にとどめ、目的地は山頂付近の広場とし た。各班にはトランシーバーを配備し、適宜、 所在確認や状況報告等を行いながら行動し た。登山終了は予定よりも2時間程度遅れてし まったが、班を作らなければ(全体で歩行する と)相当の時間を要したと思われる。 ・行動途中において、体力的に厳しい様子 が見られた引率者がいたが、一時的に他班の引 率者を再編成することに対応した。生徒は引 き続き班単位で行動する形を維持しつつ、引 率者間で連携を取り、全体状況を把握できる 体制を確保した。 ・今回の登山で最も危険と思ったところは女体 山山頂である。写真を撮るのに夢中になって 足を踏み外さないよう、注意喚起した。□	・下山時、石や階段等で滑り、しりも ちをつく生徒が多かった。□	・登山客が多い山の ため、石が踏み磨か れ、湿気のあるところ ではかなり滑りやす くなっていた。□	・体を横にしたり、登 るときの姿勢にしたり して対応するように注 意した。また、生徒間 の距離を確保するよ うに注意した。□	問題なし
4	大田原 高等学校	読図山行(尺 丈山)□	栃木県那珂 川町・茨城県□	令和8年 5月9日□	1日 (日帰り)□	9名	2名	大那地のお地藏さん周辺集合(菊地様邸) 6:00、行動開始6:30…登山道入り口6:40 …409ピーク7:45…496ピーク8:55…500 ピーク9:35…尺丈山ピーク10:20(昼食)出 発10:50…舗装道路終点11:15…大那地 のお地藏さん12:10到着、ミーティング13:00終 了□ □	1名	日本スポーツ協 会コーチ1(山 岳)□ □	第1号	晴れ 0mm	尺丈山は茨城県側から訪れる人がほ とんどで、栃木県側の道は整備されて いない。そのため、読図にはちようどよい 山であるが、駐車場がない。GW中 に周辺を訪れ民家を伺ったところ、菊 地様ご夫妻より場所を提供してもらえ ることになり、そこを基点として山行を 行った。当日の天候・気温・発雷確率 等、特に問題ないが、風速がやや強 い天気図となっていた。見晴らしの良 いところでは風速7m/sであった。山行 中はヘルメット等をつけ、慎重に行動 した。また、新入生は読図に慣れてい ないため、かなり細かく指導したため、 予定時間を押していたが、生徒の理 解も早く、後半は早く進み、結果的に 予定時間よりも早く終えた。□	特になし	特になし	特になし	問題なし